

中央大學學則

目次

第一章 總則

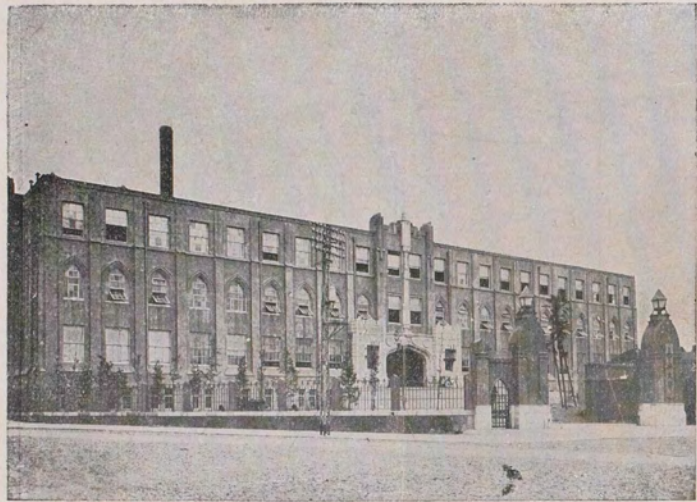
第二章 學則

目次

學部……………一—三

大學豫科……………三—〇

専門部……………二—五



中央大學校舎正面



校庭の一

# 中央大學學則

## 第一章 總則

第一條 本大學ハ法律、政治、經濟、商業ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授シ并其濫與ヲ攻究スル所トス

第二條 本大學ニ法學、經濟學、商學ノ三學部及ヒ大學院ヲ設ケ大學豫科ヲ附置ス

第三條 學部ニ於テハ法律、政治、經濟、商業ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授ス

大學院ニ於テハ學部ニ於テ教授スル學術ノ濫與ヲ攻究セシム

大學豫科ニ於テハ各學部ニ入ルニ必要ナル高等ノ普通學科ヲ教授ス

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 本大學ノ休業日ハ左ノ如シ

自四月一日 至同月十五日

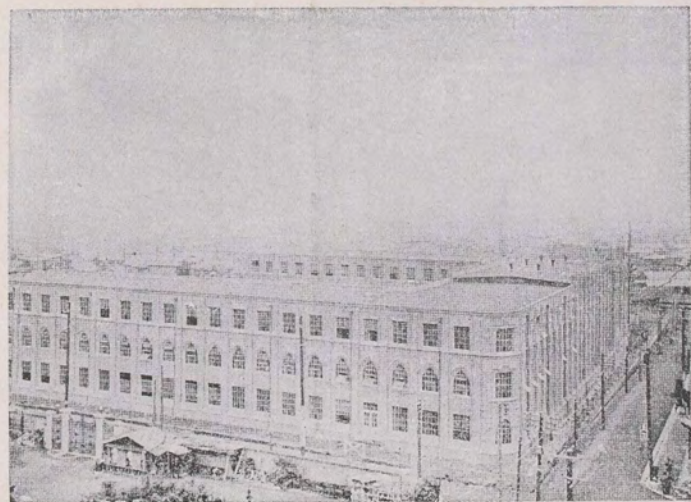
自七月十六日 至九月十日

自十二月二十六日 至翌年一月七日

日曜日、大祭祝日及ヒ本學記念日(十一月十一日)



運動場



校舎全景

第六條 各學部ヲ卒業シタル者ニハ其卒業證書ヲ授與ス  
 第七條 各學部ニ二年以上在學シテ卒業シタル者ハ其學部ニ從ヒ法學士、經濟學士、商學士ト稱ス  
 ルコトヲ得但第二條ニ依ル轉學者ハ他校在學ノ學年ヲ通算ス

### 第二章 學部

第八條 各學部ノ修學期間ヲ三學年トス  
 第九條 學部ヲ分チテ左ノ三トス

- 一、法學部
- 二、經濟學部
- 三、商學部

#### 第一節 學科課程

第十條 各學部ノ必修科目、選擇科目、隨意科目、其配當及ヒ每週授業時數左ノ如シ

#### 第一法學部

科	第一學年	第二學年	第三學年
目	業時數	業時數	業時數
科	目	科	目
	業時數		業時數

必修科目	選擇科目			
	經濟學	社會學	羅馬法	
憲法	四	二	二	二
民法 <small>(總則、物權、債權、親族)</small>	二	二	二	二
刑法 <small>(總則)</small>	二	二	二	二
外國法 <small>(英法、獨法)</small>	四	二	二	二
商法 <small>(總則、商行為、保險)</small>	六	二	二	二
民事訴訟法 <small>(第一編)</small>	二	二	二	二
刑事訴訟法	二	二	二	二
民事、刑事實習	二	二	二	二
外國法 <small>(英法、獨法)</small>	四	二	二	二
行政法	四	二	二	二
國際公法	四	二	二	二
國際私法	二	二	二	二
破產法	二	二	二	二



○選擇科目ハ學年ノ始第一學年ニ在テハ二科目、第二學年ニ在テハ二科目若クハ三科目、第三學年ニ在テハ二科目ヲ選定シ學長ノ承認ヲ經ヘシ

第三 商學部

第一學年	第二學年	第三學年
必修科目 簿記(銀行)	商工經營論	交通論(海鐵運道)
二	三	四
經濟原論	銀行論	保險論(生命)
二	二	三
民法	法論	會計學
六	五	二
工業通論	法 <small>(總則、商行爲、會社)</small>	商會
二	二	二
取引所 <small>(實買、賣、含信用)</small>	簿記(工業)	商業事情
二	二	四
貨幣論 <small>(信用、法)</small>	商業政策	商業實務
二	二	二

○選擇科目ハ學年ノ始第一學年ニ在テハ一科目若クハ二科目、第二學年ニ在テハ同上、第三學年

第一學年	第二學年	第三學年
商業實務	工業政策	社會政策
二	二	二
商業英語	商業實務	演習
二	二	二
選擇科目	商業英語	同上
商業史	倉庫關稅	植民政策
二	二	二
統計學	農業政策	國際私法
二	二	二
憲法	行政法	破產法
三	四	二
刑法總論	刑法各論	
二	二	
隨意科目	國際公法	
	四	
名著研究	同上	
二	二	
第二外國語 <small>(佛、獨、露、支、那、內)</small>	同上	
三	三	

ニ在テハ二科目ヲ選定シ學長ノ承認ヲ經ヘシ

## 第二節 入學、休學及ヒ退學

第十一條 本大學ニ入學ヲ許スハ本大學豫科ヲ卒業シタル者及ヒ左ノ各號ノ一ニ該當スル者トス

一 高等學校高等科卒業者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等ノ學力アリト認めタル者  
二 本學舊大學部卒業者及ヒ本學專門部卒業者但大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

三 本大學ト同等學校ノ大學豫科卒業者及ヒ專門學校卒業者但大正七年文部省令第三號第二條第四項ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

第十二條 本大學ト同等學校ノ第二學年以上ニ在學シタル者ニシテ轉學ヲ願出ツルトキハ相當ノ學年ニ編入ス但本大學ノ學科課程中他校ニ於テ修了セサルモノアルトキハ其科目ニ限り試験ヲ行フヘシ

第十三條 入學志願者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘテ本大學ニ差出スヘシ但試験ヲ要スル者ハ申込ト同時ニ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第十四條 本大學ノ入學期ハ每學年ノ始一回トス但第十二條ニ依リ他ノ同等學校ヨリ轉學スル者

ハ此限ニ在ラス

第十五條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ但在學證用紙ハ本大學ヨリ申受クヘシ

第十六條 保證人ハ東京市内ニ一家計ヲ立ツル成年者タルコトヲ要ス  
保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事件ニ付其責ニ任スヘキモノトス

第十七條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十八條 學生疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二个月以上修學シ能ハサルトキハ其事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上學長ニ願出テ其許可ヲ經テ當該學年間休學スルコトヲ得

第十九條 休學シタル學生ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入テ修學スルモノトス但休學年間ト雖モ事故止ミタルトキハ其旨ヲ届出テ出席スルコトヲ得此場合ニ於テモ當該學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十條 學生休學中ハ授業料ヲ免除ス

給費又ハ貸費ヲ受クル者ハ休學ノ月ヨリ之ヲ罷ム

第二十一條 學生ニシテ陸軍現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其間第十八條ノ規定ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十二條 疾病其他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出テ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

- 一 學業劣等若クハ疾病ニ因リ成業ノ見込ナキ者
- 二 出席常ナラサル者
- 三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一介年間出席シ又ハ正當ノ理由ナク一介月以上出席シタル者

第二十四條 第八章ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四介月以上ヲ經過シ改善ノ實アリト認めタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

### 第三節 試 驗

第二十五條 試驗ハ每學年ノ終ニ舉行シ毎年九月追試驗及ヒ再試驗ヲ舉行ス

但追試驗及ヒ再試驗ヲ受クル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十六條 試驗ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十七條 試驗ハ各科目ニ付合格不合格ヲ決ス

試驗ノ成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第二十八條 第一學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第二學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス、第二學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第三學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス、第一學年配當科目中試験未済又ハ不合格ノ科目アルトキハ此科目ヲモ通算スルモノトス

但科目ト稱スルハ第十條ノ學科課程表ニ依ル

第二十九條 試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但六介年ヲ超ユルコトヲ得ス試験ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

### 第四節 學 費

第三十條 學部ニ入學スル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第三十一條 授業料ハ一學年金百十圓トス左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月(四十圓) 第二期 九月(金四十圓) 第三期 一月(金三十圓)

第三十二條 學年ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及ヒ退學以後ノ授業料ヲ免除ス

第三十三條 學生在學中ハ出席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス



第三十四條 既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス  
 第三十五條 授業料ヲ滞納スル者ハ完納ノ上ニ非サレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

### 第三章 大学院

第三十六條 大学院ノ入學期ハ毎學年ノ始トス但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ  
 第三十七條 本大學ノ卒業者ニシテ大学院ニ入ラント欲スル者ハ特ニ研究セントスル事項ヲ具シ  
 學長ニ願出テ其許可ヲ受クヘシ  
 本大學ノ卒業者ニ非スシテ大学院ニ入ラント欲スル者ハ前項ノ入學願書ニ學業履歷書ヲ添附シ  
 テ差出シ當該學部ノ檢定ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ檢定料トシテ金十圓ヲ納ム  
 ヘシ

第三十八條 大学院學生ノ在學ハ其年限ヲ定メス二年以上在學スル者ハ研究シタル事項ニ付卒業  
 論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ總テ學位規程ニ依ル

第三十九條 大学院學生ハ各研究室ニ於テ學長ノ指定スル指導教員ノ指導ヲ受ケ研究ニ従事スル  
 モノトス

第四十條 大学院學生ノ爲メ特ニ講義ヲ開キ特別實習ヲ爲サシムルコトアルヘシ  
 大学院學生ハ學長ノ許可ヲ受ケ各學部ノ講義實習等ニ出席スルコトヲ得

第四十一條 大学院學生ハ毎學年ノ終ニ於テ其研究ノ狀況及ヒ成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教  
 員ヲ經テ學長ニ差出スヘシ

第四十二條 大学院學生ハ研究料トシテ一學年金六十六圓ヲ納ムヘシ

第四十三條 第十五條乃至第二十四條ハ之ヲ大学院學生ニ準用ス

### 第四章 大學豫科

#### 第一節 學科課程

第四十四條 大學豫科ノ修學期間ヲ三學年トス

第四十五條 大學豫科授業科目、其配當及ヒ每週授業時數左ノ如シ

#### 第一部 (法科、經濟科)

第一學年	第二學年	第三學年
科目	科目	科目
每週授業時數	每週授業時數	每週授業時數



第二節 入學、休學及ヒ退學

第四十六條 大學豫科ニ入學ヲ許スハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者トス但外國人ニシテ之ニ相當スル學歴ヲ有スル者ハ中學校四學年終了程度ノ試験檢定ノ上之ヲ許可ス朝鮮人及ヒ臺灣人亦之ニ準ス

(一)中學校四學年修了者(二)高等學校尋常科修了者(三)高等學校高等科入學資格試驗合格者(四)專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者(五)文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ檢定シタル者(六)文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十七條 左ノ各號ノ一ニ該當シ前級各科目ノ試験ニ合格シタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許ス

(一)中學校卒業者(二)高等學校高等科一學年修了者(三)專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者(四)文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十八條 大學豫科ノ入學期ハ每學年ノ始一回トス但補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ  
第四十九條 第十五條乃至第二十四條ハ大學豫科學生ニ之ヲ準用ス

第三節 試驗

第五十條 各科目ノ試験成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第五十一條 不合格ノ科目總科目ノ三分ノ一ニ達セサルトキハ教員會ノ銓衡ニ依リテ假ニ進級セシムルコトヲ得此場合ニハ不合格ノ科目ニ付キ再試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス

再試験ハ毎年九月之ヲ舉行ス但再試験ヲ受クル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第五十二條 引續キ二回進級セサル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第五十三條 試験ハ每學年ノ終ニ舉行ス但學年試験以外ニ於テ臨時試験ヲ行フコトアルヘシ

第四節 學費

第五十四條 大學豫科ニ入學スル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第五十五條 授業料ハ一學年金百圓トス左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月(金三十五圓) 第二期 九月(金三十五圓) 第三期 一月(金三十圓)

第五十六條 第三十二條乃至第三十五條ハ大學豫科學生ニ之ヲ準用ス

第五章 給費生及ヒ特待生

第五十七條 學生中學術優等品行方正ナル者ヲ選ヒ銓衡ニ依リ給費生又ハ特待生トス

第五十八條 給費生ハ當該學年間額金三百圓以内ノ學費ヲ給與シ特待生ハ當該學年間授業料ヲ

免除ス

第五十九條 給費生又ハ特待生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ其待遇ヲ解ク

第六章 貸費生及ヒ留學生

第六十條 貸費ハ本大學貸費並寄附貸費ノ二種トス

第六十一條 學生中學費支辨ノ途ナキ者ハ銓衡ニ依リ貸費生トシテ當該學年間額金三百圓以内

ヲ貸與スヘシ

第六十二條 寄附貸費ハ寄附者ノ指定ニ從ヒ前條ノ貸費年額以内ヲ貸與スルモノトス但特ニ貸費

額ヲ限定セラレタルモノハ其額ヲ貸與ス

第六十三條 貸費ヲ受ケントスル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ學長ニ宛テ差出スヘシ

第六十四條 貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本大學ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ所定ノ

證書ヲ差入ルヘシ

第六十五條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業後一今年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額ツ、ヲ月賦返納ス

ヘシ

第六十六條 貸費生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ貸費ヲ罷ム

第六十七條 貸費生ニシテ貸費ノ停止又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ又

ハ退學スルトキハ貸與ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ但疾病ノ爲メ廢學シタル者ハ情狀ニ

依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第六十八條 本大學卒業者ニシテ學術優等、品行方正ニシテ將來學術ノ攻究ニ從事セント欲スル者

ニハ特ニ學費ヲ貸與シテ海外ニ留學セシムルコトアルヘシ

留學生ニ關スル事項ハ派遣ノ都度之ヲ定ム

第七章 學生心得

第六十九條 出校スルトキハ必ス制服、制帽、洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ

第七十條 出校スルトキハ必ス聽講券ヲ携帯スヘシ若シ之ヲ携帯セサル者ハ退場ヲ命ス

第七十一條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其他粗暴ノ舉動アルヘカラス

第七十二條 授業中ハ退席ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ授業者ノ

許可ヲ受クヘシ

第七十三條 學生又ハ保證人氏名ヲ改稱シ若クハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第七十四條 三日以上闕席セントスルトキハ必ス其事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 闕席届出ノ日數ハ一个月ヲ超ユルヲ得ス若シ一个月ヲ經過シ其理由尙ホ止マサルトキハ其都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

### 第八章 懲 罰

第七十六條 學生學則又ハ校規ニ背反シ其他不都合ノ行爲アルトキハ情狀ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シ尙ホ器具等ヲ損壞シタル者ニハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第七十七條 學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ品行不良改悛ノ目途ナキ者ハ退學ヲ命ス

第七十八條 前二條ノ規定ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シタルトキハ其旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知シ且ツ其退學處分ハ同種學校ニモ之ヲ通知スヘシ

## 中央大學專門部學則

### 第一章 總 則

第一條 本大學ニ專門部ヲ置キ法律、政治、經濟、商業ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授ス

第二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條 本大學ノ休業日ハ左ノ如シ

自四月一日 至同月十五日

自七月十六日 至九月十日

自十二月二十六日 至翌年一月七日

日曜日、大祭祝日及ヒ本學記念日(十一月十一日)

第四條 各學科ヲ卒業シタル者ニハ其卒業證書ヲ授與ス

### 第二章 專 門 部

#### 第一節 學科課程

第五條 本大學專門部ヲ左ノ三科ニ分ツ

一、法學科  
 二、經濟學科  
 三、商學科  
 第六條 各學科ノ修學期間ヲ三學年トス  
 第七條 各學科ノ修業科目及ヒ其配當左ノ如シ

第一 法學科

科目	學年
法學通論	第一學年
憲法	第一學年
行政法	第二學年
民法	第二學年
商法	第二學年
刑法	第二學年
訴訟法	第二學年
破產法	第三學年
經濟學	第一學年
國際私法	第二學年
國際公法	第二學年
財政學	第二學年
倫理	第一學年
哲學概論	第一學年
社會學	第一學年
心理學	第一學年
外國語	第一學年
隨意科目	第一學年

別科生ハ英語若クハ獨逸語、論理、心理、哲學概論ヲ隨意科トス

破產法	第三學年
經濟學	第一學年
國際私法	第二學年
國際公法	第二學年
財政學	第二學年
倫理	第一學年
哲學概論	第一學年
社會學	第一學年
心理學	第一學年
外國語	第一學年
隨意科目	第一學年

第二 經濟學科

科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
經濟學	第一學年	貨幣原論	信用及銀行論 農業政策、交通政策	商業政策、社會及工業政策 植民地政策、保險
財政學	第一學年			財政學
政治學	第一學年	政治學	政治史	外交史
統計學	第一學年	統計學原論	人口及經濟統計學	
簿記及會計學	第一學年	簿記原論	會計學	
經濟史	第一學年	經濟史及經濟學史		
經濟地理	第一學年	經濟地理		
民法	第一學年	債權總論、物權總論、親族權	物權、債權各論	相續
商法	第一學年		總行爲、會社	手形、海商
憲法及行政法	第一學年	憲法		行政法
國際公法	第一學年		國際公法	國際公法

別科生ハ英語若クハ獨逸語、論理、心理、哲學概論ヲ隨意科トス

第三 商學科

科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
國際私法	第一學年	倫理	倫理	國際私法
倫理	第一學年	倫理	倫理	
哲學概論	第一學年			哲學概論
社會學	第一學年	社會學		
論理、心理	第一學年	論理、心理		
外國語	第一學年	英語若クハ獨逸語	英語若クハ獨逸語	英語若クハ獨逸語
隨意科目	第一學年	刑法總則	外刑、國法各論	取引所論
簿記及會計學	第一學年	商業簿記	銀行簿記	會計簿記
商業事務	第一學年	商業算術及珠算	外國通爲、信替	商業通實、信踐
內商、外工、商業營、事論、情及	第一學年		商工經營論	內外商業事情





歴ニ依リ特ニ國語、漢文、數學ノ三科目又商學科ニ在リテハ更ニ英語ノ試験ヲ行フコトアル  
ヘシ

第十條 専門部第二學年以上ニ編入スルニハ前項ノ資格ヲ有シ尙ホ前各學年ノ科目ニ付キ試験ヲ  
受ケ合格スルコトヲ要ス但受験料ハ金五圓トス

第十一條 正科生ノ入學期ハ每學年ノ始一回トス別科生ハ隨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 本大學専門部ト同等學校ノ第二學年以上ニ在學シタル者ニシテ轉學ヲ願出ツルトキハ  
相當ノ學年ニ編入ス但本大學ノ専門部學科課程中他校ニ於テ修了セサルモノアルトキハ其科目  
ニ限リ試験ヲ行フ

第十三條 入學志願者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘテ本大學ニ差出スヘシ但試験ヲ要スル者ハ申  
込ト同時ニ受験料金三圓ヲ納ムヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ但在學證用紙ハ  
本大學ヨリ申受クヘシ

第十五條 保證人ハ東京市内ニ一家計ヲ立ツル成年者タルコトヲ要ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事件ニ付責ニ任スヘキモノトス

第十六條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滞ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出  
スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十七條 學生疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二个月以上修學シ能ハサルトキハ其實ヲ證  
スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上學長ニ願出テ其許可ヲ經テ當該學年間休學スルコトヲ得

第十八條 休學シタル學生ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入テ修學スルモノトス但休學年間ト雖モ事  
故止ミタルトキハ其旨ヲ届出テ出席スルコトヲ得此場合ニ於テモ當該學年ノ試験ヲ受クルコト  
ヲ得ス

第十九條 學生休學中ハ授業料ヲ免除ス

給費又ハ貸費ヲ受クル者ハ休學ノ月ヨリ之ヲ罷ム

第二十條 學生ニシテ陸軍現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其間第十七條ノ規定ニ準シテ休學シ  
滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十一條 疾病其他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出テ學長ノ許可ヲ受ク  
ヘシ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

- 一 學業劣等若クハ疾病ニ因リ成業ノ見込ナキ者
- 二 出席常ナラサル者
- 三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一介年間闕席シ又ハ正當ノ事由ナク一介月以上闕席  
シタル者

第二十三條 第五章ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四ヶ月以上ヲ經過シ改善ノ實アリト認めタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

### 第三節 試 驗

第二十四條 試驗ハ每學年ノ終ニ舉行シ毎年九月追試驗及ヒ再試驗ヲ舉行ス但追試驗及ヒ再試驗ヲ受クル者ハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十五條 試驗ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十六條 試驗ハ各科目ニ付合格不合格ヲ決ス

試驗ノ成績ハ優、良、可、不可ヲ以テ表シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第二十七條 第一學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第二學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス、第二學年配當科目中四分ノ三以上ノ試験ニ合格シタル者ニ非サレハ第三學年ノ試験ヲ受クルヲ得ス第一學年配當科目中試験未済又ハ不合格ノ科目アルトキハ此科目ヲモ通算スルモノトス但科目ト稱スルハ第七條ノ學科課程表ニ依ル

第二十八條 試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但六ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス試験ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

### 第四節 學 費

第二十九條 本大學専門部ニ入學スル者ハ入學料トシテ金三圓ヲ納ムヘシ

第三十條 授業料ハ一學年金七十七圓トス左ノ三期ニ納ムヘシ但當分月割金七圓ツツ分納スルヲ妨ケス

第一期 四月(金三十圓) 第二期 九月(金三十圓) 第三期 一月(金十七圓)

第三十一條 學年ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及ヒ退學以後ノ授業料ヲ免除ス

第三十二條 學生在學中ハ闕席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十三條 授業料ヲ月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日マテニ納付スヘシ

第三十四條 既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス

第三十五條 授業料ヲ滞納スル者ハ完納ノ上ニ非サレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

### 第五章 給費生及ヒ特待生

第三十六條 學生中學術優等、品行方正ナル者ヲ選ヒ銓衡ニ依リ給費生又ハ特待生トス

第三十七條 給費生ハ當該學年間額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ハ當該學年間授業料ヲ免除ス

第三十八條 給費生又ハ特待生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ其待遇ヲ解ク

第六節 貸費生及ヒ留學生

- 第三十九條 貸費ハ本大學貸費並寄附貸費ノ二種トス
- 第四十條 學生中學資支辨ノ途ナキ者ハ銓衡ニ依リ貸費生トシテ當該學年間年額金三百圓以内ヲ貸與スヘシ
- 第四十一條 寄附貸費ハ寄附者ノ指定ニ從ヒ前條ノ貸費年額以内ヲ貸與スルモノトス但特ニ貸費額ヲ限定セラレタルモノハ其額ヲ貸與ス
- 第四十二條 貸費ヲ受ケントスル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ學長ニ宛テ差出スヘシ
- 第四十三條 貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本大學ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ
- 第四十四條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業後一箇年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額ツツ月賦返納スヘシ
- 第四十五條 貸費生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ貸費ヲ罷ム
- 第四十六條 貸費生ニシテ貸費ノ停止又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ又ハ退學スルトキハ貸費ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ但疾病ノ爲メ廢學シタル者ハ情狀ニ依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第三章 研究科

- 第四十七條 本大學專門部卒業者ニシテ學術優等品行方正ニシテ將來學術ノ攻究ニ從事セント欲スル者ニハ特ニ學費ヲ貸與シテ海外ニ留學セシムルコトアルヘシ
- 第四十八條 研究科ハ專門部ノ卒業者ニシテ既修ノ學科ニ付尙ホ深遠ナル研究ヲ爲サント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク
- 第四十九條 研究科ノ修業科目ハ左ノ十一科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム
- 憲法 行政法 刑法 民法 商法 訴訟法 國際法 政治學 經濟學 財政學 商業學
- 第五十條 修業年限ハ一年以上三年トス
- 第五十一條 入學期ハ毎年四月トス但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第五十二條 研究科ハ專門部、舊英吉利法律學校、舊東京法學院及ヒ舊東京法學院大學ノ卒業者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限リ入學ヲ許ス但同等學校卒業者若クハ之ト同等ノ學力アル者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者亦同シ
- 第五十三條 研究科ノ學生ヲ分テ正科生及ヒ別科生トス專門部正科ヲ卒業シタル者ヲ正科生トシ其他ヲ別科生トス

第五十四條 第十四條乃至第十九條ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第五十五條 研究科ノ授業科ハ一ヶ年金三十三圓トス但其納付ニ關シテハ第三十一條乃至第三十五條ヲ準用ス

第五十六條 研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル指導者ニ從ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス但一般學生ノ爲メニスル講義ハ任意聽聞スルコトヲ得

第五十七條 研究科ノ卒業試験ハ論文試問トス但場合ニ依リ更ニ口述試問ヲ爲スコトアルヘシ卒業論文ハ二人以上ノ指導者之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ一年以上修業ノ後再ヒ試験ニ應スルコトヲ得

第五十八條 研究科ノ卒業試験ニ應セントスル者ハ受験料金十圓ヲ納ムヘシ

第五十九條 研究科ノ試験ニ及第シ法學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部法學士ト稱スルコトヲ得經濟學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部經濟學士ト稱スルコトヲ得商學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部商學士ト稱スルコトヲ得

### 第四章 學生心得

第六十條 出校スルトキハ必ス制帽ヲ戴キ制服、洋服若クハ袴ヲ著ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ

第六十一條 出校スルトキハ必ス聽講券ヲ携帯スヘシ若シ之ヲ携帯セサル者ハ入場ヲ許サズ

第六十二條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其他粗暴ノ舉動アルヘカラス

第六十三條 授業中ハ退席ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ授業者ノ許可ヲ受クヘシ

第六十四條 學生又ハ保證人氏名ヲ改稱シ若クハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第六十五條 三日以上闕席スル者ハ必ス其事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條 闕席届出ノ日數ハ一个月ヲ超ユルヲ得ス若シ一个月ヲ經過シ其事由尙ホ止マサルトキハ其都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

### 第五章 懲 罰

第六十七條 學生學則又ハ校規ニ背反シ其他不都合ノ行爲アルトキハ情狀ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シ尙ホ器具等ヲ損壞シタル者ニハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第六十八條 學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ品行不良改悛ノ目途ナキ者ハ退學ヲ命ス

第六十九條 前二條ノ規定ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シタルトキハ其旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知シ且ツ其退學處分ハ同種學校ニモ之ヲ通知スヘシ



昭和四年一月

東京市神田區駿河臺南甲賀町六番地

中央大學

20020814